

EMO ハノーバー 2001

EMO Hannover 2001

国際営業部

林 忠男

世界三大国際工作機械見本市の1つである欧州国際工作機械見本市（EMO）が9月12日から9月19日までの8日間、ドイツのハノーバー市で開催された。世界三大工作機械見本市と言われるのは、米国国際工作機械見本市（IMTS：シカゴショー）、日本国際工作機械見本市（JIMTOF）と今回のEMO ショーである。直近のIMTSは2000年9月6日から9月13日まで、JIMTOFは2000年10月28日から11月4日まで開催された。今回のEMO ショーは展示会場26館の内22館を使用し、展示小間面積は194,570m²と非常に広い。この展示会場に39か国から2,263社の出展があった。因みに前回のJIMTOFでは、19か国768社の出展、展示規模45,108m²であり、如何にEMO ショーの規模が大きいかが窺われる。日本の企業は当社を含め78社出展しており、ドイツ、イタリアに次ぐ国別第3位となっている。入場者数は開幕前日の米国同時テロの影響で予想を下回り、20万人程度と言われている。

当社のブースは5号館で、入り口近くの非常に良い場所に陣取ることができた。業種・機種別に館が分かれており、当社ブースのある5号館は「工具、ワーク・工具保持具、測定機器」の館となっている。工具メーカー（Cutting Toolとして登録したメーカー：金型や保持具も含まれる）は373社あるが、これらは3号館から6号館に集中して出展していた。床・スタンドを赤基調とした当社ブースと外装など青を基調とした業務提携先である住友電気工業（株）ブースが隣同士で小間を出した。

当社は工作機械関連商品として、工具を中心に軸受、マテリアルの商品展示と、工作機、ロボット、油圧はパネル展示を行った。

当社ブースの来訪者から当社商品への質問があいつぎ、品質、機能、精度などに高い評価を得た。また、今回のEMOを契機に商談が進んでいる新顧客もあり、当社商品の優位性がグローバルに認識された。



当社ブース



住友電気工業（株）ブース

工具

工具は「エコ&ECO」をコンセプトに次の商品展示を行った。

- ・ドリル……………アクアドリルシリーズ、
SG-ES・SG-ESS
- ・エンドミル…………X's ミルジオシリーズ
- ・アルミ用工具…………DLC エンドミル、
DLC ドリル
- ・スロアウェイ工具…アクアドリルウェイビー、
X's ミルウェイビー
- ・ドライ対応ホブ……デュアルカットホブ

これらの商品展示とタッチパネル式ディスプレイにより当社「エコ&ECO」商品の特長・性能などの紹介を行った。また、アクアドリル SG-ES の説明および切削状況を写した映像画面を終日通じて流した。タッチパネルは来訪者が自由に検索し見ることができ、また当社アテンド者が説明用に使用したりして好評であった。



台湾からのお客様にタッチパネルを利用して商品 PR を行い、更に現物を説明する当社社員。

軸受

工作機械用として

- ・ボールねじサポート軸受
- ・スピンドル用精密軸受

減速機・産業機械用として

- ・球面ころ軸受

クレーン、シーブメーカ向けとして

- ・シーブ軸受

の展示を行った。



軸受商品

マテリアル

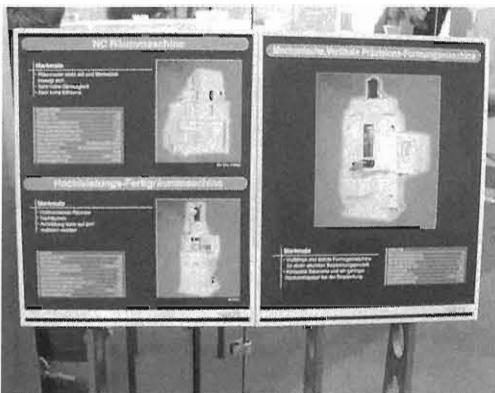
マテリアルは、高硬度素材の高付加価値化を狙った商品として

- ・ミクロンハード
(ハイス及び超硬の極細ワイヤー)
- ・プレハードン（焼入れ済みハイスロッド）
- ・プレシェーピ（異形引抜き線材）

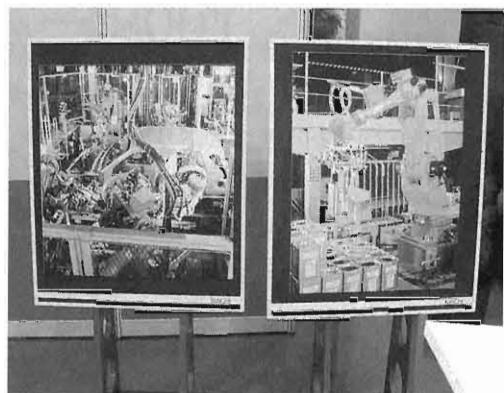
の商品とこれらの用途例として極細パンチやドリルブランクの展示を行った。



ミクロンハード



ブローチ盤と転造盤のパネル



スポット溶接と搬送口ボットのパネル

工作機・ロボット

工作機・ロボットはパネル展示を行った。

次回の EMO は 2003 年 10 月 21 日から 28 日までの 8 日間、イタリアのミラノ市で開催される予定になっている。これまでの EMO はフランス（パリ）、ドイツ（ハノーバー）、イタリア（ミラノ）と持ち回りで 2 年に一回行っていたが（ハノーバー開催は 4 年ごと）、次回のミラノ以降、2005 年からはドイツのハノーバーだけの開催となる。

[参考]

EMO : Exposition mondiale de la Machine Outil
(フランス語)

IMTS : International Manufacturing Technology Show
JIMTOF : Japan International Machine Tool Fair